

ようこそ先輩 第7回

平成26年6月9日（月）

昭和21年3月卒業生

昭和10年3月、三河台小学校の卒業アルバムを紹介。

当時の校舎は木造、全校児童数700～800人。当時の教職員の写真も紹介。

1. 三河台小学校での思い出などをお話ください。

・三河台小学校は麻布小学校の半分くらいしかなく、校庭も狭かったです。運動会では教室から保護者は見学していました。残念ながら空襲で校舎が焼けてしまい、1年半くらい田舎に疎開しました。学校がなくなってしまったので、廃校式をして麻布小学校へ編入しました。三河台小学校の最後の卒業生になりました。

2. 戦争の様子などお話をください。

・父は警防団、母は国防婦人会をつくっていました。戦地へ向かう人を日の丸の旗を振って見送ったことを思い出します。空襲警報になると窓に黒いカーテンをして電灯がもれないようにするのですが、灯りがもれていないかを見回っていました。その他、バケツリレーでの消火活動練習、竹の先に縄を結び、水で濡らして火を消すといった訓練もしました。

3. 5年生から6年生卒業間際までの疎開先での思い出をお話ください。

・田舎に親戚のない人たちが集まって、栃木県の田沼町に行きました。3つのお寺に分かれて過ごしました。そのお寺に120人ぐらがあつまり、男性の先生3人、女性の先生3～4人、寮母さん2人、地元の女性の方たちや住職の家族の方に世話をしてもらいました。食べ物がなくなっていき、当時はみんな空腹でした。お墓にお供えしている団子を子どもたちは食べて空腹を満たしました。寮長先生は毎日農家をまわり、食べ物を探してくれました。大変だったろうと思います。おやつは猪口1杯ほどの大豆でした。学校は地元の学校に通いましたが、校庭は広いものの教室はそんなに広くなく、机が足りないので、先生の教壇を机代わりにして教わりました。子ども同士はすぐに仲良くなって、お伊モを持ってきてくれました。学校から帰るとすぐに山に行き、百合の根っこや野蒜、トウモロコシの茎などを採って食べていました。お風呂は、水が足りないの、お寺があった山の中腹から井戸のある山の下まで行ってバケツで運びました。2, 3回往復したでしょうか。朝も同じように山を下りて行って顔を洗っていました。冬は学校から帰るとカゴをしょってたき火の燃料となる杉の葉を集めに行きました。大変な思いもしましたが、今思えばいい経験をしたな、と思います。稲刈りや草むしりなどたくさんの経験をしましたから。日曜に

なるとお寺の本堂に集まって般若心経を唱えたり、土曜の夜(毎週ではないが)には歌や特技を披露し合ったりして楽しいこともしました。先生方は父、母代わりで大変ご苦労されたと思います。昭和20年5月ごろ、新しい1、2年生が入り、万願寺に移りました。畑に行ってはトマトやキュウリをもぎとって食べました。農家の人たちもそれがわかっていたので、お墓に供える団子を多めに置いてくれました。ある日、女性の先生の弟さんが来て少しの時間一緒に過ごしました。2、3日たった頃、空を見るように言われたので見上げると、飛行機が翼を揺らして飛んでいくのが見えました。弟さんが戦地へ飛び立つ前に挨拶に来たんだとわかりました。そんな悲しい出来事もありましたが、女性の先生の妹さんと男性の先生が結婚したという嬉しい出来事もありました。

4. 今の子どもたちに期待することをお話ください。

・皆さんいろいろな道を歩いていくと思いますが、よそ見しないで、人に迷惑をかけないで、よい道を歩いて行ってほしいと思います。そのうちに進みたい道が見えてくるとと思います。

最後に・・・戦争が終わり、三河台小学校の校長先生が麻布小学校の校長先生になって初めての運動会の写真を紹介。(ゼッケンに三河台の文字が見える。)

